

令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果における校内分析から見た本校児童の様子

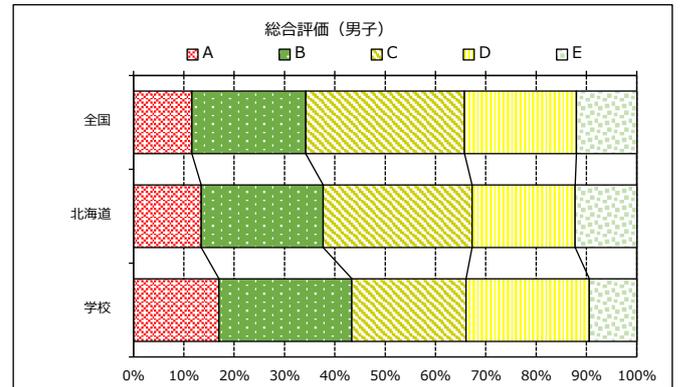
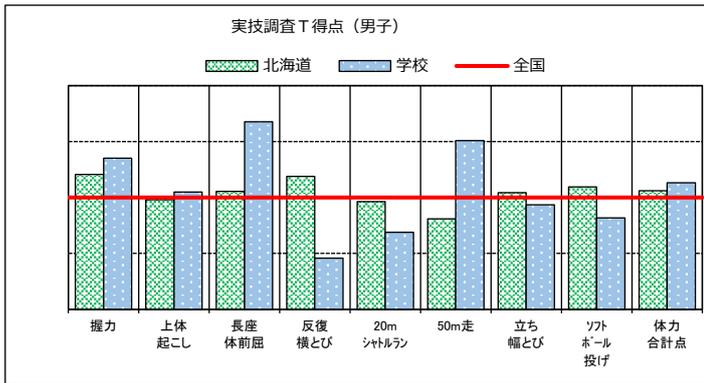
帯広市立豊成小学校 校長 野中 利晃

1 実施時期・対象学年

令和7年5月～7月に実施し、第5学年を対象に分析したもの

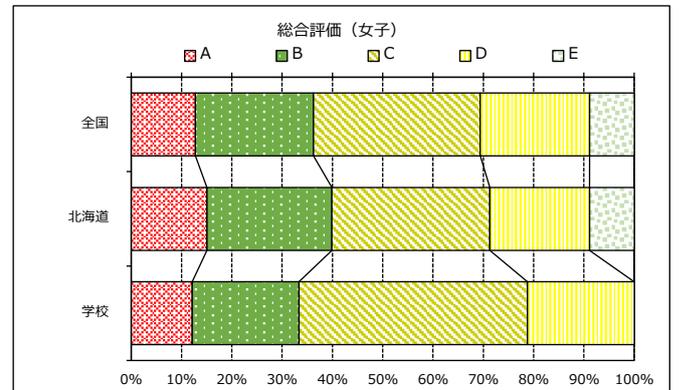
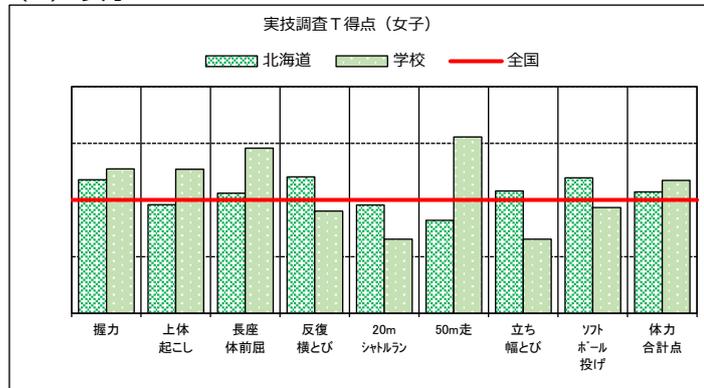
2 実技集計の結果

(1) 男子



男子の実技得点では、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「50m走」の4項目で全国平均を上回る結果となり、特に「長座体前屈」と「50m走」では、大きく記録を伸ばしています。「体力合計点」においても、全国平均を上回る結果となりました。反して、「反復横とび」「20mシャトルラン」は全国平均を下回り、持久力に課題が見られることがわかります。また、右側の総合評価では、A評価、B評価の児童の割合が、全国、全道に比べ高く、運動能力が高い児童が多いことがわかります。

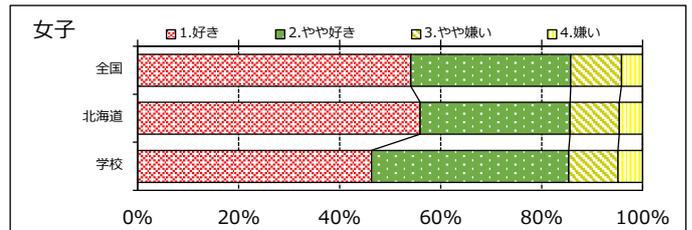
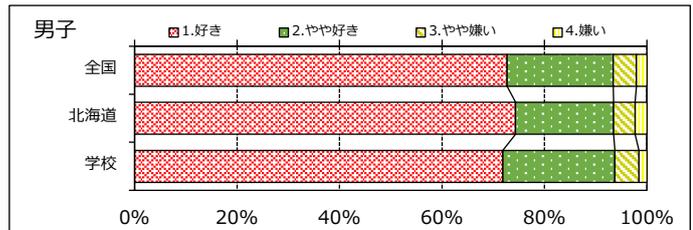
(2) 女子



女子の実技得点では、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」「50m走」の4項目で全国平均を上回る結果でした。特に、「長座体前屈」と「50m走」で大きく記録を伸ばしています。また、「体力合計点」においても、全国平均を上回りました。反して、「20mシャトルラン」と「立ち幅とび」では全国平均との開きがあり、課題が見られました。日常的な運動習慣や学習への意欲付けが重要であると考えられます。右側の総合評価では、A評価の児童の割合が、全国、全道に比べわずかに低く、C評価の児童の割合が高いことがわかります。

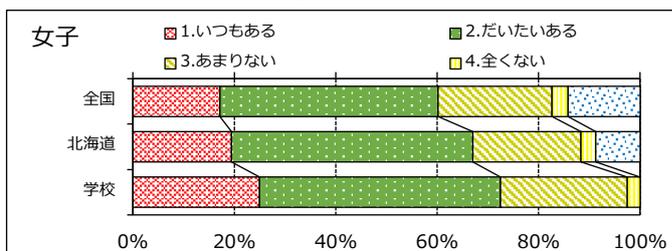
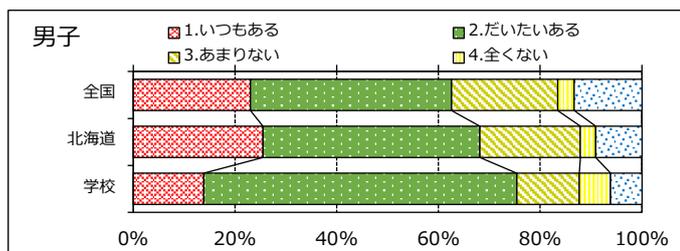
(3) 児童質問紙の結果

Q1.運動(体を動かす遊びをふくむ)やスポーツをすることは好きですか。



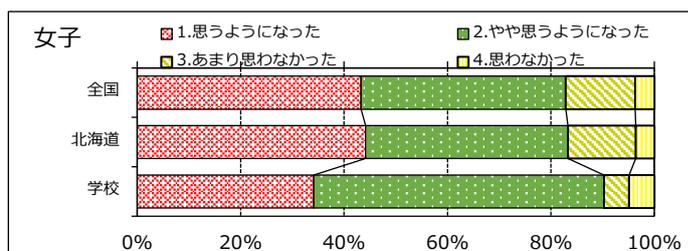
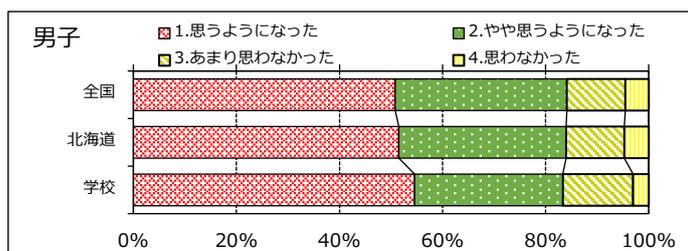
本校において、運動やスポーツが好きな児童の割合は、男子は全国平均並み、女子は低い傾向にありました。女子については、「どんな時に体育の授業が楽しいと感じますか」の質問に、「できなかったことができるようになったら」「自分に合った場やルールが用意されていたら」「自分に合ったペースで行うことができた」と回答する児童が多くありましたので、個に合わせた運動の場の設定や、スモールステップで運動能力の向上を感じさせること、日常的に楽しめる運動スペースを設けることなどを通じて、「運動が好き」と答える児童を増やすことにつなげていきたいと考えています。

Q13. 体育の授業で、タブレットなどのICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



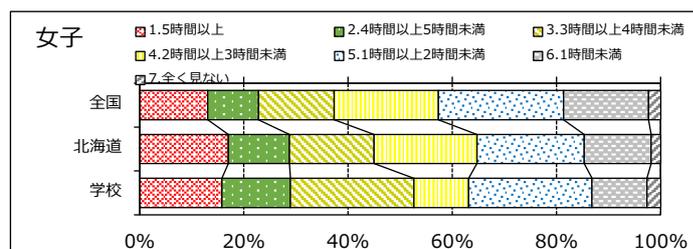
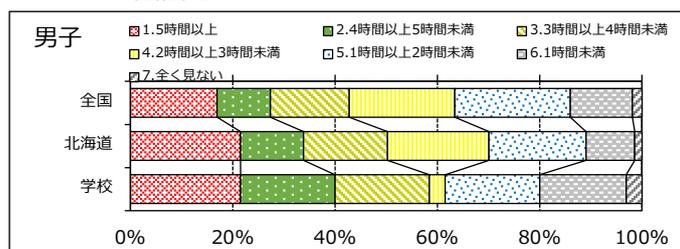
ICTを使って学習することにより、できたりわかったりする場面が「いつもある」「だいたいある」と回答した児童は、男女ともに、全国の割合を上回る結果でした。日常的な学習において、動画で撮影した自分の動きを確認したり、端末を使って友達とよい動きについて話し合ったりする場面を積極的に取り入れることが、児童の「できた、わかった」につながっていることがわかります。また、体力合計点との相関関係においても、体力総合点の高い児童ほど、この項目で「いつもある」と回答しており、ICTを効果的に活用した学習を今後も進めていくことが重要だと感じています。

Q17. 保健を学習して、もっと運動しようと思いましたか。



保健領域(体の発達やけがの防止など)の学習と、運動領域の学習とを関連付けて考えることができる児童は、運動能力・運動意欲が高い傾向にあると言われています。本校では男子児童において「思うようになった」と回答する割合が高いことがわかります。今後も、保健領域を通じて健康増進への理解や、生涯を通じて運動に親しもうとする児童を育てていきたいと考えます。

Q8. 平日(月～金曜日)について聞きます。学習以外で、1日にどのくらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面を見ていますか。



スクリーンタイムについて、全国平均との比較では、男子は5時間以上と回答した児童が多く、反して女子は1時間以上2時間未満と回答した児童が多いという結果でした。また、睡眠時間の質問では、本校は全国平均に比べて十分に睡眠をとっている児童の割合が高く、特に女子は「9時間以上」の回答が6割を占めました。安定した生活リズムは、学校生活のみならず、成長期の児童の心身に大きく影響を及ぼします。保健の学習等を通じ、児童自身が、余暇と健康の関係についてよく理解し、家庭生活で実践していくことができるよう指導を続けます。

3 結果から

実技項目の結果から、男子・女子ともに、同じ4種目で全国平均を上回る結果となりました。体力合計点も、男女ともに全国平均を上回っています。特に、「50m走」については、男女ともに大きく記録を伸ばしており、短距離での疾走能力が高いことがわかりました。反して、男子では「反復横跳び」と「20mシャトルラン」で、女子は「立ち幅跳び」と「20mシャトルラン」で全国平均を下回り、敏捷性、跳躍、全身持久力といった能力に課題が見られます。これらの能力を伸ばす運動に楽しみながら取り組む機会を増やし、「できるようになった、楽しくなってきた」という成果を感じられるような学習活動となるように、体育の授業改善に努めていきます。

体力向上の取組としては、今年度も、ボールや竹馬、フラフープなどの運動器具を自由に使用できるように設置したことにより、外に出て遊ぶ児童で夏の間はいつでもグラウンドがにぎわっている状況が見られました。夏の熱中症対策や、冬の運動不足も考慮しながら、今後も日常的に仲間と運動に親しみ、生涯を通じて健康な心身を体を維持しようとする心を育てていきたいと考えます。

さらには、保健領域の学習と、運動能力との関連を重視し、保健の学習を、運動や生活に活かそうとする意欲を今後も大事にしていく必要があります。スクリーンタイムを含めた生活習慣についても、児童自身の実践意欲で改善していくことができるものと考えます。引き続きの丁寧な指導と、家庭との連携によって、健康な児童の育成に努めていきたいと考えていますので、今後とも、各家庭のご支援をよろしくお願いいたします。